

## 令和元年度第2回横須賀市自殺対策推進協議会会議録

- ・日 時： 令和2年1月23日（木）午後3時から午後5時まで
- ・場 所： 横須賀市保健所 第一研修室
- ・出席者： 大滝紀宏、奥原孝幸、樫福宏征、河野伸子、小砂哲太郎  
小林利彰、丹木幸代、塚田美保子、中島直行、橋本健司  
藤尾聡允、松本義弘、三橋政義、三堀浩二、森山由実  
山田孝一、湯浅 亮（敬称略、五十音順）  
欠席5名
- ・オブザーバー： 出石珠美、興津和弘、岸 信明、椿 雄一、富澤真由美  
古谷久乃、森田佳重、山田賢志、山野井徹、渡邊久美子  
脇 範泰（敬称略、五十音順）
- ・事務局： 小菅俊彦 : 健康づくり課課長補佐  
増田浩子 : 健康づくり課主査  
亀田千尋、中野亮太、山口雅子

### 1 開会

### 2 傍聴3名の報告

### 3 議事

#### <座 長>

本日の議事については順番を替え、議事3から始める。

今年度の自殺対策の取組について(1)「周産期のメンタルヘルスを考える会」について、オブザーバーに説明を求めた。

#### <森田課長>

この考える会は、横須賀市医師会の尽力により平成29年2月に発足している。東京都の調査によると、妊産婦の死亡原因の第一位が自殺であることや、国の統計からは児童虐待による死亡は0歳0ヶ月児が最多であり、加害者の多くが実母であって、精神疾患が大きく関連しているとされている。

このような背景により、妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援が必要となった。会のメンバーは精神科医、産婦人科医、小児科医、行政は、母子保健、精神保健、児童福祉の担当者、地域からは、助産院、産後ケア、訪問看護の担当者等により構成されている。成果は3点があげられる。

1点目は、医師による情報交換が行われることで、周産期のメンタルヘルスに関わる診療、入院の連携が迅速に図られるようになった。

2点目は、夜間休日等における妊産婦の不安や相談に関して、周産期メンタルヘルスの24時間訪問看護が医師の指示により対応可能となった。

3点目は、様々な行政サービスの適切な情報共有の必要性を知ることにより、支援のフローチャートを作成することができた。必要な情報を迅速、適切に利用者に届けることができるものであり、活用に向けて発展させていきたい。

課題としては、医師会の負担も大きくなっているため、行政としても運営に関わる体制作りを検討している。

#### <座長>

横須賀市医師会、精神保健福祉対策の事業計画として「周産期メンタルヘルス」があげられている。産婦人科医、小児科医、精神科医の連携が図られるようになり、さらに地域の多職種との連携、支援が可能となってきた。

#### <座長>

引き続き(2)性的マイノリティ専門相談「よこすかLGBTs相談」について、オブザーバーに説明を求めた。

#### <山田課長>

この相談は、令和元年5月からスタートした。

専門的相談であり、特定非営利活動法 SHIP に委託している。主に臨床心理士が相談を受けている。

相談は事前予約制であり、3日前までに人権男女共同参画課に予約を入れてもらう。相談は無料となっている。今までは、県や横浜市で相談を受けてもらっていたが、身近な横須賀での相談が可能となった。これまでに3件の利用があった。特徴として、本人のみならず、家族や学校や施設等の支援者からの相談も受けている。相談場所は、基本的には総合福祉会館内のデュオ横須賀だが、必要に応じてアウトリーチも可能となっている。例えば採用面接で配慮することはどのような事があるのか、組織内でLGBTのカミングアウトを受けたが、どのように対応したらよいか分からないといった相談にも対応している。

<座 長>

(3) 若者向け相談カードの作成について事務局に説明を求めた。

<事務局>

(3) について説明を行った。

<副座長>

県立保健福祉大学の学生からの意見を聞きたいと依頼があった。学生はこういった機会を得たことは喜びであり、興味もあることから積極的に意見を伝えている。

若者の目に入り、手に取ってもらえることを大切に考えているようだ。学内にも手に取りやすい場所に置く試みを保健所と相談しながら試みていきたい。

<座 長>

他に助言、質問はあるか。

<松本構成員>

英語の表現については、国際交流課に意味合いを相談・確認してみるとよいのではないか。

<座 長>

よりよい形に整えていきたい。

議事1 横須賀市の自殺の現状について、事務局に説明を求めた。

<事務局>

議事1 について説明を行った。

<座 長>

質問はあるか。

議事2 自殺対策計画の進行管理について、事務局に説明を求めた。

<事務局>

議事2 について説明を行った。

<座 長>

質問はあるか。

<小砂構成員>

ホームページのゲートキーパー研修案内が、平成 28 年度から更新されていない。  
市民の皆さんはどこで、研修の案内を手に入れているのか。

<事務局>

ホームページの他に、9月の自殺予防街頭キャンペーンでもゲートキーパー研修の案内を配布し、また窓口で配架し、広報紙にも載せている。

<小砂構成員>

若い人を増やしていくとなると、街頭キャンペーンや広報紙よりも、ホームページの方がつながりやすいと思われる。

<事務局>

ホームページを更新して行く。

<座 長>

議事 4 その他として、意見、周知したこと等はあるか。

<中島構成員>

市民公開講座を予定している。また、横須賀こころの電話も平成 16 年 12 月 1 日にスタートし、15 周年となり記念式典を予定している。

<座 長>

最近のこころの電話ボランティアの集まり具合はどうか。

<中島構成委員>

応募者数は全国的傾向ではあるが減少傾向であり、昨年ボランティア養成研修に 12 名の応募があり、1 月から半数がボランティアとして加入している。

<事務局>

3 月 6 日（金）、自殺予防街頭キャンペーンのボランティア募集の案内。  
昼、夜ともに久里浜駅で開催する。

<座 長>

意見、周知事項がなければ議事を終了する。

なお、協議会終了後、自殺対策研修会を開催する。

引き続き研修会（事例検討）を開催する。

第1回の協議会において、協議会の進め方については座長に一任されている。

研修会の目的は、事例検討を通して課題を共有し、皆で考え、新たな取り組みのヒントを見出し、横須賀市の自殺対策に役立てることにある。

横須賀市の特徴的な取り組みとして自殺未遂者対策があげられる。自殺未遂者支援の現場において難渋している3事例をあげた。難渋するのは、基本的に本人の同意により介入となるが、明らかに自殺の危険が迫っているにも係わらず、本人あるいは家族の同意が得られない場合など、命の問題と個人情報保護の問題をどのように調整していくのか、様々な立場から活発な意見交換を行って欲しい。

<事務局>

第2回自殺対策推進協議会を閉会。

※この議事録は構成員等の発言を、事務局において要点筆記したものです。